

「心」で会話

中 三

私たちは声を出すことができる。自由にいつでも会話することができる。でも、この世界には、手話でしか会話ができない人もいる。私は今まで、このような人を「かわいそう。」と思っていた。あの光景を見るまでは。

その日、私は友達と二人で、電車で二時間以上もかかる場所にある、高校の文化祭に向かっていった。わくわくして向かいながらも、乗車中は立ち続けて、加えて、慣れない乗り換えで次第に疲れ去っていった。そんな中、私たちは本来降りるはずだった駅の一つ前の駅で降りてしまった。気付いたときには不安と焦り、いらだちで暗い雰囲気になり、気まずい空気が流れた。そのとき、急に横から、七、八人の集団が、大きく前を指さし、この上ない笑顔で目の前を通り過ぎていった。そのリーダーである男の人の笑顔にひかれて見ていると、その集団は一斉に手話を始めたのだ。そのとき初めて、その集団は手話で話す人たちのツアーで

あることに気付いた。私の目はいつしかその人たちに釘付けになっていた。吸いつくように見入っていた。なぜなら、その人たちは、みんなとびつきの笑顔で、穏やかな顔で、とても幸せそうだったからだ。そこには音がないはずなのに、私にはその人たちの明るく楽しげな会話が聞こえてくるようだった。私は別世界に放りこまれたような不思議な気分になった。どれほどの間、その輝きに満ちた光景を見ていたか分からない。いつの間にか電車は来ていた。ふと、隣を見ると友達も同じようにその人たちを見ていた。「すごいね。」「手話だ。」そんな言葉は出てこなかった。私たちは無言で笑顔を交わし、静かに目的地へ向かっていった。いらだちなどは、とうに消えていた。ただあの光景が忘れられなかった。心が温かく、友達の顔もとても穏やかだった。

私は、今まで手話でしか話すことができない人々たちを「かわいそう。」と思っていた。でも、あの人は少しも「かわいそう。」なんかではなかった。幸せいっぱいな顔で会話をしていた。そのとき、その人たちは口を使わなくても「心」を使って話せている。手の動き一つ一つにその人の思い

や伝えたいこと全てを詰めて、その人たち全員が一つの空気を創っている。だからあんなに楽しそうなのだ。それに比べて、私たちはどうだろう。会話をするとき心から接することができているだろうか。

私は、人と楽しく会話をすることが苦手だ。会話を盛り上げたり、会話を続けさせたりすることがあまり得意ではない。でもそれは、自分が心を閉ざしていたからではないだろうか。相手と楽しく会話をすることを心のどこかで諦めていたからではないだろうか。私たちに今、足りないことは「心」で会話をすることだと思う。インターネットやスマートフォンが普及してから、より一層、「心」で会話をすることが少なくなっていると思う。チャットで会話をしている人たちを見ると、画面上ではにぎやかな会話が繰り返り広げられているのに、顔はちっとも笑っていない。相手の目や表情を見て、目の前で心から相手との時間を大切にしている。これが本当の「会話」なのではないかと思う。そうすればきっと私たちも、あの手話で話していた人たちのように幸せいっぱい会話ができるのではないだろうか。

私はあの日、あの人たちから多くのことを学び、気付かされた。私はあの光景と、今抱いている気持ちを一生忘れず、この思いと共に人と接していきたい。そして、私は「心」で会話をすることで、多くの人に笑顔と楽しい時間を届け、心から会話することのすばらしさを分かち合いたい。そして、少しでも、あの人たちと同じような光景を、これから創っていきたい。みんなが「心」で会話をできるようにになれば、いじめやネット上での中傷が減っていき、この世界は笑顔と平和に包まれていくと思う。一人一人が、日頃の会話を少し意識するだけで、「心」で会話するだけで、世界は大きく変わるだろう。